

JAAF  
MIE

# 三重陸協会報

第11号

一般財団法人  
三重陸上競技協会



事務局・〒516-0023 伊勢市宇治館町510 (三重交通Gスポーツの杜伊勢内) TEL 0596-22-8890・FAX 0596-63-5337 URL:http://mierk.jp/ MAIL:info@mierk.jp

## ごあいさつ

三重陸上競技協会 会長代行 名古岳彦



この1年は国内外問わず、激動の時代になりました。昨年3月の全国一斉休校に始まり、全国の緊急事態宣言や自粛要請と続き、年が明けてもその新型コロナウイルスの収束がまだまだ先のように感じます。

スポーツ界でも多くの大会が中止や延期となったり、仲間と一緒に練習ができなくなったりと多大な影響が出ました。何と云っても東京オリンピック・パラリンピックの延期は世界中に衝撃をもたらしました。ただその中においても、リモートでの競技会の開催やトップアスリートによるSNSでのトレーニング方法の発信など、時代に応じた「競技のあり方」が生まれまし。多くの人がスポーツを愛し、どのような状況においても熱心に取り組みたいという気持ちの表れではないでしょうか。

本県におきましても伊勢市で行われ

る予定だった全日本中学校陸上競技選手権大会が中止となり、中学校の選手、指導者の皆さんはもちろんのこと、中学校体育連盟、三重陸上競技協会、地元の方々など関係する皆さんがやり場のない悔しさを抱えたのではないのでしょうか。また多くの県内外の競技会も中止や延期を余儀なくされ、特に、中学生だけではなく学生の皆さんにとっては数少ないチャンスだったにも関わらず、なくなってしまうことが心苦しく感じます。

このような状況にも関わらず、昨年9、10月に行われた全国大会では県内大学生、高校生、中学生が上位入賞や新記録の更新等の活躍をしてくれました。

本年2021年には三重とこわか国体・三重とこわか大会が三重県で開催されます。全日本中学校陸上の中止の悔しさをバネに成功へと導けるよう、選手、指導者の皆様の活躍を期待します。今後益々の三重県の陸上競技の発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

## 「三重とこわか国体」を迎えるにあたって

三重陸上競技協会 専務理事 松澤 一一一



だが、中学生の全中に向けた強化が「とこわか国体」に花咲かしてくるものと期待しております。

2021年早々の箱根駅伝では、三重県出身の選手が活躍してくれて国体を迎える三重として幸先の良いスタートを切れたと思います。昨年の全日本大学駅伝では、地元皇学館大学の川瀬選手の活躍も取り上げられ国体を迎えるムードに花を添えてくれました。しかしながらコロナウイルスの感染拡大により、東京オリンピック開催が危ぶまれていく今日この頃です。秋の三重「とこわか国体」開催についてはワクチンの関係もあり大丈夫ではないかと思えます。この五年間の長い準備を絶対に実らせたい思いと、三重の力を全国に知らしめる機会でもあります。2018年の全国高校総体では、予想以上の結果を高校生は示してくれ優勝こそなかったものの多くの選手の入賞を果たしてくれました。この流れを引き継ぎ、全国中学校陸上競技選手権大会開催と期待していました。残念ながらコロナの影響もあり中止という結果でし

たが、中学生の全中に向けた強化が「とこわか国体」に花咲かしてくるものと期待しております。さて、三重国体の前年にこのようなコロナウイルスの影響を受け、体験したことのない未曾有の厳しい状況になってきました。実業団の少ないこの三重県では、中学・高校生の得点が必ずでしたが、冬季の県内外の合宿・強化練習会の開催自粛などにより競技力向上を目指すことが厳しく、また、チームでの練習が出来ない、練習場所の使用も確保できない状況で今日まで来ました。しかし、やっとの事で冬休みに国体候補選手の合同練習会が実施でき、中学・高校生は実業団選手からの刺激を受け、生き生きとした表情で練習に参加する姿を久しぶりに見ることが出来たことは、国体を迎える三重としては大変嬉しい事です。この勢いを大会に、新聞紙面を陸上競技でにぎわしてほしいものです。そのためにも、我々審判員も全国高校総体を開催した実績を胸に、三重県選手団の活躍を促す競技環境作りをして行きたいと思えます。日本陸連が評価する日本一の三重の競技運営を皆さんと共に全国に披露しましょう。

# 各地区陸協報告

## 桑員陸協

令和2年度は新型コロナウイルス

感染症が猛威を振るい、緊急事態宣言が発出されるなど、今だからつてない状況からの幕開けでありました。例年4月から国体一次予選会に向けて、選抜記録会や、記録会など実施し、シーズンに入るための必要な時期ではありませんが、軒並み大会が中止となり、今後の大会の再開に向けて頭を悩ます状況が続きました。

特に最終学年の選手にとつては、これまで、様々な努力をし、有終の美を飾れるように頑張ってきたと思います。それを発揮する場もなく、月日が流れてしまいました。そのため、当協会では、なるべく選手に大会に参加できる機会を少しでも多く作ろうと考え、未公認ではありますが、年度当初からの事業計画を変更し、記録会を実施していきました。

皆様もご存じのとおり、桑員地区は、県内でも最北端にあり、愛知県との隣接地域でもあるため、感染症リスクも高くなりやすい地域であったため、当協会が実施す

る大会から絶対に感染症を発生させてはならないと考え、徹底した感染症対策を実施しながらの大会運営を行いました。

1月に開催する予定であったロードレース大会も、再び三重県独自の緊急事態宣言が発出されたため、苦渋の決断ではありましたが、感染拡大防止の観点から中止せざるを得ない状況となり、急遽中止をいたしました。

今年度は選手にとつても、協会にとつても新型コロナウイルスに振り回される年となってしまいました。したが、いつ終息するかかわらない状況の中ではありますが、選手にとつて絶対に競技会に参加する機会を奪ってはならないために、徹底した感染症対策を実施し、競技会や合同練習会などの場を提供していきたくと考えています。

また、少子化が進むなか1人でも多く陸上競技者を増やす為に、さまざまな手法を使い陸上競技人口の増加を目指していきたくと思っています。

## 三泗陸協

1月に開催した三泗小学生タスキリレー大会を最後に本年度の競

技会をすべて無事終了いたしました。今年度は、コロナ感染症に関連して予定していた競技会の半数程度を開催することが出来ませんでした。特に、小学生関連の行事が県大会を含めてほぼ中止となり、関係者にとつて残念な結果となりました。ただ、小学生の指導者の強い思いと協力もあつて急きよ11月に地元小学生の大会を開催できたことは幸いでした。また、国民体育大会をはじめとして多くの全国大会が中止になってしまった中で、12月に京都市で開催された全国高校駅伝には県大会男子の部で優勝した四日市工業高校が出場し三重県代表として健闘してくれました。ハード面においては、昨年9月にメイン競技場の大改修が完了し10月にオープンしました。すぐ隣に未公認ではありますが400mのサブトラックも併設し、県下2番目の競技場として

これからの行事の充実や競技力向上に貢献できるよう活用を計画していく所存です。2021年度の三泗地区における競技会については、競技場は完成しましたが、県下で国民体育大会が開催される関係で利用期間が限定されるため、例年より少ない数となる予定です。三泗選手権大会については、次回も鈴鹿市陸上競技協会のご協力を得て鈴鹿・三

泗選手権大会として鈴鹿市で開催の予定です。なお、四日市中学校カーニバルについては5月に開催を計画しています。今後も四日市市のご理解・ご支援のもと陸上競技を愛好する方々に愛着を持っていただける活動になるよう取り組んでいきます。

## 鈴鹿陸協

### 「東大よりも学力が高く、日本の総獲得メダル数を単独で上回るアメリカの大学」

顔はある意味ウイルスよりも恐ろしい。なにせ人間の心に効くワクチンも特效薬もないのだから。ただ、今回のウイルス騒ぎで今までの価値観を見直す機会が増えたのは良いことだと思う。

今回はいつもと違い、強化指定選手専任コーチとしてここ数年間、毎年海外遠征で1ヶ月以上経過してきた観点から日本と海外の取り組みの違いを紹介したい。

これまで骨格や筋肉の質の違い、海外選手の薬物使用などを理由に日本選手の記録の低さを正当化？してきたが、昨今、国内で伸び悩んでいた選手達が海外へ練習拠点を移し始めて復活してきたことを見るとそれだけでは言い切ることが出来ないと思う。海外のコーチから日本の選手達にアドバースする際、短距離ならばスタートの構え方から1歩目の出し方、歩幅、ピッチ、目線、科学的に分析されたスピード曲線へのペース配分など細かな指示が飛び交う。また、そのように動けるようにメイン練習に入るまでの流れが日本と全く違う。

長距離を除けば日本に陸上留学にくる海外の選手は皆無といえる。逆に欧州やアジアの選手達はアメリカに行くか、アメリカのコーチを自国に招聘している。リ

オオリンピック以降、その動きは顕著で中国などは各国のメダリストを育成したコーチをずらりと招聘しているし、他のアジアの国々もアメリカや欧州から多くのコーチを招聘していて、もはやアジア大会、アジア選手権でさえ日本が簡単にメダルを取れなくなってきた。

このような状況の中で日本は海外コーチを一切受け入れないまま東京オリンピックまでの4年間で過ぎたことを考えると、今のままの育成方法で日本陸上界に未来はあるのだろうか？本文の内容は強化育成の考え方に一石を投じられたいという思いからではあるが、皆さんから見れば老婆心的なこととお許し願いたい。

まず、第1の違いが日本以外の国は1シーズン制で選手の休養期間を作っていること。

アメリカの陸上は1月から始まり6月末で終了する。ジュニア選手は長い夏休みを取ったあとに違う競技、例えば球技に移行して冬場は陸上競技をしないし、コーチも違う競技を教えている。ジュニア時代に幅広い観点から総合体力を育成し、コーチ自体も様々な競技を指導する事で身体の使用方、筋肉の流れを勉強することに

なる。シニア選手は世界大会終了後、1ヶ月の休養期間を取り、疲労・消耗した筋肉、靱帯、腱、内

臓、メンタル面をしっかりとケアをする。その後はびつくりするほど簡単なメニューからスタートし、新しい筋肉を3ヶ月以上かけてじっくりと作り直し、年明けから室内競技会に向けて調整して4月以降のアウトドアシーズンを迎える。このような観点から見ると2020年はコロナの影響があったとはいえ、次年度にオリンピックを控えているのなら10月開催の日本選手権はあり得ない。2021シーズンのことを考えていた何人かの選手は全力を出していなかった。海外の選手達が10月は次年度の準備を進めているので、その時点での出遅れを身にしみてわかっていくからだ。優勝したある選手もインタビューで今日から休みますといったところに選手の本音が現れている。

第2の違いは、練習メニューはコーチと選手が内容を理解し合っていて、これ以上やっつてはいけないと言う練習強度の管理が徹底していることだ。選手の怪我の責任はコーチの責任という考えが浸透している。練習メニューの作り方が非常に理にかなっている。練習強度は例えば100m 11秒00がベストの選手なら、そのタイムから80%走、85%走、90%走とタイムを換算し、強度に合わせて本数も調整する。1週間ごとに本

数が増えるが4週目で疲労度合いを確認する週をもうけ、選手の状態をチェックしながらメニュー全体を見直す。タイム設定してあるから選手はその通りに動けば良いので力まずに動ける。心拍数で疲労具合をチェックするからサボりようがない。選手に余裕があるとサボっていると捉える日本とは大違いだ。予定外の「もう1本いけ!」とかは絶対ない。そのメニューをこなせば必ず強くなるという確信が選手とコーチの間にあるので、練習中はコーチからの罵声など一切ない。基本動作はすべて毎日のWarmupに入っている。取り立ててドリルで動き作りをしなくても必然的に効率の良い動きが身につくようになってくる。ちなみに大学1年目だけは入学後に大学の雰囲気にならなければ、大学を変わる事が出来る。但し、実際にそんなことになったら大学とコーチに汚名が付くので選手育成については必死だ。

第3に高校年代までは日本で行う全国大会は全米としては行わない。これは幼少期から競い合わせることによって今現在、日本で起きている様々な悪影響が選手の将来性をかえって小さくしてしまうということを防ぐためだ。もちろんメーカーから道具のサポートなど一切ないし、もしタダで提供してもらっていたら大学進学後に試合に出られない。また、女子選手の盗撮被害を防ぐためにセパレーターユニホームは大学生まで禁止。プロになって初めて許される。このように、ジュニア期には一つのスポーツに特化せず、過度な競争も行わずに総合体力を作ることを優先し、シニアになってから記録が伸びるよう、また少しでも長く活躍できるように選手には絶対に無理をさせない。ちなみに、強化指定になるとジュニア期から家庭教師をつけて勉強面もサポートしてもらるので、文武両道のレベルは日本の比ではない。多くのメダリストがゆくゆくは会社経営者、弁護士、医者になっているので引退後に対する将来への不安が少ない。20代で億の金を稼ぐ選手には無駄遣いしないように、さらには騙されないようにマネーアドバイザーも付き、お金の管理までサポートしてくれている。

一方でスポーツ関係の施設は立派な物がそろっていて、大学ごとに室内練習場も完備しているが、道具一つ一つを見れば日本製の方が遥かに使いやすいしウレタンの質も段違いに悪い。が、それ故その環境に合わせてトレーニングするので、どんな試合会場に行っても小言を言わない。フィールド内

に日差しや雨を防ぐテントがない、助走路が短く全助走がとれないなんてざらにある。ダイヤモンドリーグでさえ、輸送バスから何もないサブトラックに放り出され、トイレも閉まっているし、これといったサポートもないまま試合に臨むだけ。それで普通。特に風向きに関しては国内だと日本人だけがやたらと文句を言っているが、海外なら向かい風でもパフォーマンスが出せるように選手育成すればすむことと一蹴される。日本選手権が世界大会代表選手の手最重要選考会で上位入賞者から選出するとうたっておきながら、実際には後付けで追い風の競技場で臨時大会を作って代表選考を増やす事は日本選手権の入賞価値がないものと同じ扱いだ。ちなみにポイントランキング制が導入されて以降、日本国内の大会の格付けが低すぎるのでポイント獲得のために格付けの高い海外の試合に転戦しているのだが、ヨーロッパの小さい町でさえ世界中から選手が集まってきているのに、日本には東京GPGPぐらいしかない。海外では小さいときから世界のトップ選手の動きが見られる事だけでもうらやましいが、音楽やイルミネーションを使い、アウンサーの絶妙な試合運びが選手と観客を一体化させ、ワクワクする大会運営が素晴らしい!プロのディレクターが試合レベルに合わせて観客を楽しませる台本を作り、運営しているからだ。ディレクター達は様々な試合を見学して運営方法を勉強しているからプロ意識がすごい!室内大会などは選手ごとに跳躍の際のバックミュージックが指定でき、日本人でも分け隔てなく選手名を叫んで応援してくれる。威張っているコーチなどいないし、選手同士とてもフレンドリーだ。その大会に出場できるレベルということで敬意を表してく

**ご協賛をいただいた企業**

- 更スポーツ
- スポーツショップ四日市
- ぎゅーとら
- NTN株式会社
- 株式会社デンソー
- 長谷川体育施設株式会社
- アシックスジャパン
- 株式会社 ニシ・スポーツ
- 株式会社 クレーマージャパン
- 岐阜協立大学
- 皇學館大学
- 日本体育施設
- ミズノ株式会社
- 三重県民共済
- ユタニペーカリー

(敬称略)

**日本陸上競技連盟栄章**  
令和元年度優秀指導者等の表彰が行われました。

- ◇ 秩父宮章  
大河内 義弘 (小俣中学校)
- ◇ 高校優秀指導者章  
南 幸裕 (稲生高校)
- ◇ 中学校優秀指導者章  
川口 一生 (嬉野中学)
- ◇ 高校優秀選手章  
三井 康平 (稲生高校)
- ◇ 中学校優秀選手章  
中山 智貴 (亀山中部中学校)



写真1



写真2

に負担のくる三段の練習には少し  
柔らかなめのウレタンを使って怪我  
の防止に努めている。

写真3. 4. 5はスペインの室  
内練習場。夏場に借りたがクーラ  
が利いていてとても快適だった。

常設されている棒高用ピットは4  
mぐらいの位置に通路が設置され  
空中動作を真横でチェックできる  
ように工夫されている。奥の部屋  
にはウエイト場も完備。別の部屋  
ではフェンシングや武道系の部屋  
も完備。陸上選手が使用する上で  
は日本のNTCの比ではない立派  
な施設である。

最後にアメリカのコーチの言葉



写真3



写真4

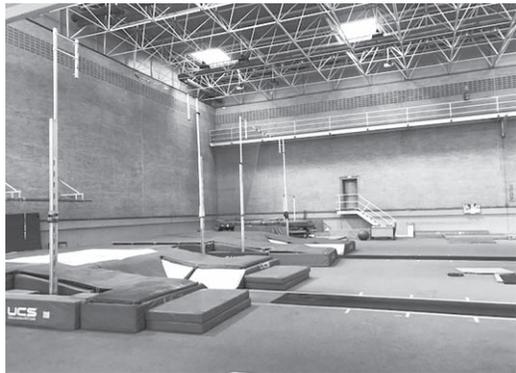


写真5

を紹介したい。以前、三段跳元世  
界記録保持者で跳躍前の手拍子を  
求めるパフォーマンスを作ったと  
言われるウィリーバンクス元  
コーチからワークアウトを受けて  
いた際に、同じグラウンド内に女子  
小学生で100m12秒台、幅跳5  
mを超える選手がいた。コーチ曰  
く、「とても素質がある選手で陸  
上選手として育てたいが、今陸上  
をやらせると将来伸びないので今  
はあえて陸上の専門指導はしな  
い。今はバスケットやサッカーな  
ど他の競技をさせることが重要で  
ある。でもそのまま球技に行かず  
に、いずれは陸上競技に戻ってほ  
しい」としみじみ語ってくれた。

これが世界で最もメダル獲得数の  
多い国の考え方のようだ。

また、中国で指導しているアメ  
リカのコーチの話では、最初指導  
を始めたときは練習量の少ないア  
メリカのやり方に反発が多かった  
が、絶対に逆らうなという命令の  
下にアメリカ流を導入していった  
らしい。それでも中国コーチが隠  
れて別練習させた結果、その選手  
は怪我をした。高齢のコーチ陣は  
中々なじめなかったようだが、記  
録が伸びていく選手達を見ている  
内に若手のコーチ達はその効率の  
良さを理解し、どんどんアメリカ  
流を吸収していつかというようだ。  
このままあと10年たつたらどんな

差になって現れてくるのか未恐ろ  
しい。  
私自身、これから国内でどのよ  
うに取り組んでいけば良いのか模  
索中ではあるが、次世代を担う指  
導者の方達には是非考えていただ  
きたい。

「日本の既存の常識を疑え！」

### 亀山陸協

本年度は、新型コロナウイルス  
感染拡大により、亀山市内で開催  
される陸上競技大会はすべてが中  
止になったため、令和2年2月9  
日(日)雪が降る中、新型コロナ  
ウイルス感染が拡大する以前に開  
催された第66回亀山市駅伝競争大  
会について報告をさせていただきます

ます。コースは亀山市歴史博物館  
前(スタート)〜関文化交流セン  
ター(ゴール)7区間 総距離  
22.4km参加区分は事業所の部  
8チーム、自治会の部5チーム、  
一般の部18チームの計31チームで  
行なわれました。優勝チームは、  
事業所の部「リケンテクノス」、  
自治会の部「みどり町連合自治会  
A」、一般の部「かめ」でした。  
本年度も、市内自治会、事業所及  
び地域団体等相互の更なる交流を  
促進し、市の活性化に寄与すると  
ともに市民スポーツの推進を図る  
ことを目的として開催している歴

史ある駅伝競争大会を継続させる  
ために、新型コロナウイルス感染  
の中ですが、開会式、閉会式は実  
施せず検温、マスク着用、手指消  
毒や沿道での応援を控えていただ  
くなどの感染症対策をしながら令  
和3年2月14日(日)に開催する  
ために準備を進めています。

令和2年9月13日(日)、今年

度初参加となった『三重県小学生  
交流大会』にJAC亀山の5・6  
年全員が出場しました。自分たち  
の競技時間のみの参加であったた



め、さほど応援する機会もなく、  
まして声での応援が規制されてい  
ましたので、見た目は盛り上がり  
に欠けるように思えたかも知れま  
せん。しかし、出場した選手は、  
どの子も一生懸命に自分の種目に  
取り組んでいましたし、中には、  
初の伊勢の競技場という子からは  
緊張感が伝わってきました。

結果としては、自己ベストを更

新した子や目標通りに走れたリ  
レーチームなど、大いに成果が上  
がったものと考えています。また、  
混合400mリレーと6年生女子  
100mでは、見事決勝進出を果  
たし、JAC亀山の名をアピール  
することができました。今後、新  
型コロナウイルス感染拡大が収束  
することを願っています。

### 津陸協

2020年。夏の東京オリ  
ピック開催に胸躍る年明けでした  
が、1月下旬頃より新型コロナ  
ウイルスの感染拡大によって怪し  
い雲行きとなり、ついには開催が  
一年延期となりました。また、一  
斉休校、緊急事態宣言などがあり、  
6月末まで大会等の自粛をする  
という未曾有の事態となりました。  
そして、7月から日本陸連のガイ  
ドラインを参考にした感染症対策  
等を講じながら、大会等が開催さ

れるようになりまし。

そんな状況の中での令和2年度を振り返ると、日本選手権で植松直紀さん（スズキ浜松AC）、男子ハンマー投）、全国高等学校陸上競技大会で小河彪さん（久居高、男子ハンマー投）が入賞し、中学生では10月上旬に開催された通信陸上の代替大会において青木文侑さん（久居東中）が男子1500mで全国ランキング1位となるなどの活躍をしてくれました。

### 松阪地区陸協

の新設は、相変わらず大きな希望です。さらに粘り強く要望を続けていきます。

松阪地区陸協は今年度松阪選手権を中止しました。毎年多くの選手に参加していただき、多くの方にご協力いただいている大会ですが、今年度の状況では開催することができませんでした。来年度は多くの活動の実施や運営を行いました計画していますので審判員・各学校・団体の方々には色々な面でご協力をいただきたいと思います。

津地区では、9月に第2回津記録会を実施しました。本年度も伊勢度会、松阪、鈴鹿、三泗など多くの地区陸協様からの温かいご配慮やご支援をいただきながら実施させていただきました。厚くお礼申し上げます。

津地区は約70名の審判員からなり、陸上競技の普及・強化を主な目的として記録会・大会・スポーツ教室等を開催しています。2021年度は、夏に東京オリンピック・パラリンピック、そして秋には三重とこわか国体・三重とこわか大会が予定されています。

特に地元で開催される三重とこわか国体・三重とこわか大会の成功に向けて、皆で感染症拡大防止に努めながら、小中高の連携をさらに深め、普及強化に全集中していきたいと思。

さらに津地区では、陸上競技場の

さらなる競技レベルの向上を目指していきたいと考えています。

今年度は多気中学校の3年生坂山成選手が全国中学生陸上競技大会において女子砲丸投で15m11の記録で優勝。三重高校の2年生西井琳音選手が全国高等学校陸上競技大会において女子円盤投げで第2位。明和中学校の3年生中川真友選手が全国中学生陸上競技大会において8位など活躍があり目立ちました。

地元の中学生や高校生の活躍や、元気な活動が地元の新開などに大きく取り上げていただくことも多く、小学生の選手や指導者のやる気をさらに増大させているように感じています。今後も松阪地区の陸上競技の普及をすすめ、三重で開催される国体に向け協力ができるように努めていきたいと思

います。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によりシーズン前半の大会がことごとく中止になり、各チームの活動も制限されるなど大変な状況でした。4月・5月に予定していた記録会を行うことができず、ようやく県大会が7月に行われるようになり、伊勢度会陸協の主催競技会としては8月の伊勢

度会選手権が今年度最初の大会となりました。

また、10月に予定していた第3回記録会は台風の影響で実施できず、10月31日に延期しての大会でした。どちらの大会も天候や学校の日程の変更に対応しての開催でしたが、選手の皆さんの競技に対する取り組み、そして「開催してくれてよかった」という言葉を聞いて主催者として嬉しく感じました。

そんな中でも今年秋に開催された全国大会で宇治山田商業高校の濱口泰河くんが男子円盤投げで第2位、伊勢工業高校の中村竜成くんが男子やり投げで第5位に入賞。女子も城田中学校出身の岩本乙夏さん（稲生高校）が砲丸投で第2位、円盤投で第3位に入賞。円盤投では五十鈴中学校出身の西井琳音さん（三重高校）が第2位に入賞するなど活躍してくれました。

### 伊勢度会陸協

また、U20の全国大会では後輩に負けじと宇治山田商業高校出身の鴨澤青海くん（東海大学）が円盤投で第2位、伊勢工業高校出身の山川混心くん（中京大学）が第6位に入賞してくれました。

この他にも男子400mで宇治山田商業高校出身の川端魁人くん（中京大学）が46秒03の三重県新記録を樹立。伊勢工業高校の濱口真幸さんが女子ハンマー投で54m

22の三重県高校新記録、五十鈴中学校の山出亮太くんが男子四種競技で2388点、厚生中学校の海老原有緋子さんが女子棒高跳びで3m50のそれぞれ三重県中学新記録を樹立してくれました。厚生中学校が秋に行われた三重県中学選手権大会の学校対抗で男子・女子・男女総合の完全優勝を達成したことも付記しておきます。

コロナ禍に翻弄されたシーズンではありましたがこのようにそれを克服し好記録、好成績を収めてくれた皆さんに敬意を表すると共にこのような状況で大会運営に協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。

来年度はまた、いつもの大会が開催できることを願っております。

鳥羽志摩陸協では、昨年同様、「陸上競技の普及」「選手の育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」を今以上に図っていくことを柱に、一人でも多くの選手がIH・全日中、国体で活躍できるように令和2年度も活動を進めようとしてまいりましたが懇切コロナ禍の中、思うように進むことができま

せんでした。

その中でも令和2年度の鳥羽志摩陸協の特徴的な活動を3つ紹介させていただきます。

最初に28年度から実施している「出前陸上教室」の開催です。「走る・跳ぶ・投げる」ことの楽しさを感じてもらおうと昨年よりの試みで鳥羽市内の小中学校より体育の授業の中に陸上競技の出前指導の時間を導入してほしいとの依頼を受け今年度は1回だけ実施させていただきました。生憎志摩市では開催することはできませんでしたが、次に、小中学校教員を対象にした審判講習会・実技講習会の開催です。

地域との連携も計りながら、陸上競技の楽しさを伝える活動ができました。また、例年通り鳥羽市には小学校陸上記録会へ審判を派遣する事もできました。

### 鳥羽志摩陸協

最後に合同練習会の開催です。特に毎年恒例となった国府の浜での砂浜やクロスカントリーを活用した冬季合同練習会につきましては、150名ほどの地区内の選手が参加し、盛大に実施する事ができました。

また、近年は県内外の学校に国府の浜（志摩市）で合宿を開催していたとき、地元の方々からも「選手が来てくれると地域が活性化する」「今日はどの学校が来ているの?」との声もいただいております。

りましたが、今期はコロナ関係で地元のクラブチーム、中学校のメンバーだけの開催になってしまったのが残念です。

また、今期は試合数も少なく少し寂しい年になってしまいました。

最後に、鳥羽志摩地区において、少子化の問題は深刻な問題です。児童・生徒数の減少に伴う小中学校の統廃合が完了し、学校数も大きく減少しました。しかし、クラブチームに所属する小学生の人数は増加傾向にあり、過去最多の人数となっております。これは、指導者の方々の努力の賜物であり、陸上競技への最初の窓口である、普及に力を入れてきたことが効果を発揮しているものと思います。

ただし、児童・生徒数の減少にストッブがかかったわけではなく今後、競技者が減少していてもおかしくない状況にあります。さらに、中学校では部活動の時間短縮等の課題もあり、地区陸協としても中学校やクラブチームとの連携を密にし、バックアップ体制を構築し推進していくことが必要と感じております。

令和3年度は、引き続き「陸上競技の普及」「選手育成・強化」「若手指導者の育成」「地域のクラブチーム、小中学校との連携、さらには他競技との連携」「現役指

導者のスキルアップ」を推進していきます。

### 伊賀陸協

今年度、コロナ感染症に関わる競技会の中止、縮小を余儀なくされる状況の中、伊賀市陸上競技協会でも大会が中止になり、多大なる影響がありました。

毎年伊賀市にある小学校全体での協力を得て行われている三重県陸上大会伊賀市予選会も、その影響で中止となりました。クラブチームを含め小学校区単位で毎年たくさんの参加がありましたが、中止となり、将来少しでも陸上に興味をもつていただける機会が無くなったことは残念に思います。

この大会が伊賀市の小学校に根付いている証拠でもありますので、来年度以降、形を変えながらも実施できるように尽力していきたいと考えています。そのひとつとして、来年度は、名張市の協力を得て、小学生大会を公認大会と位置づけ、メイハンフィールドにて、伊賀名張合同競技会を開催する方向で進んでいます。競技役員確保の問題もありますが、公認の競技場を使用することで選手の競技レベル向上にも繋がると考えています。地元から少し距離が遠くなりますが、各小学校、クラブチー

ム、保護者には今まで以上に、ご理解、ご協力を得ながら、行なっていきたいと考えています。

また、今年東京オリンピックが開催されれば、伊賀白鳳高校出身の中村匠吾選手の活躍も楽しみにしているところです。一人でも多くの子ども達が、こうやって世界で活躍する姿を夢に見て、実現にむけて羽ばたいてほしいものです。

中学校においては、中学校10校中、陸上競技部がある学校が少なく、小学校で実績のある児童生徒が中学進学後に陸上競技を選択できない傾向にあり、クラブチームが強化・普及になんとかぎりぎり力を注いでいる状況になっていますが、なんとか皆様のお力を賜りますようどうぞよろしくお願い致します。地域過疎化が進み年々子どもたちの人口が減少していくなかで、陸上競技の選手の確保や、指導者の確保、市内全体として中学校の活性化を図り、来る三重国体に臨んでいきたいと考えております。

2020年待ちに待った東京オリンピックが当たり前のようになり、催されることを願ってチケットをゲットとした人もいました。最初

に出場が決まったのはマラソンMGCで三重県伊賀白鳳高校出身の中村匠吾選手でした。思い起こせば今から40年前、やはり三重県出身で現在は超有名な瀬古利彦選手が、モスクワオリンピックの代表選手とられました。このモスクワオリンピックは、政治とスポーツの関係が問われて日本は、参加できませんでした。選手に選ばれてもその場に立てなかったあの時の状況はあまりにも無情でありました。そして今、日本を含めた全世界は、昨今まで全く想像できなかった様相を呈する事になりました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い先行きが不透明な状況が続き生活様式も変わり当たり前であったことが当たり前ではなくなりました、全てが想定外の出来事です。

### 名張陸協

昨年、三重県で行われるはずであった全国中学校陸上競技選手権大会も中止となりました。もちろんインターハイも中止でした。数多くの大会が無くなり、これらの大会を夢見て頑張ってきた選手たちには、本当に辛く胸が締め付けられる思いでした。唯一10月にジュニアオリンピックがカテゴリーの変更で開催されることが分かり名張市陸上競技協会のスタッフは三重県中の審判免許をお持ちの先生方やコーチの皆さんに依頼

してメイハンフィールドで競技会を行うことになりました。8月10日のコロナ禍の中で気温は、朝の8時で30度、日中では、一時42度まで上昇しての開催でした。大会前からの体温観察シートの提出、当日は、一人ひとりの検温と消毒を徹底してなんと2000人の選手が集まってくれました。午前小学生、午後は、中学生、4時から高校一般とカテゴリー別に入れ替わりながら密になることを避けながら行いました。この時期、他の地域では、大会のき並み中止になったので標準記録を破るためにたくさんの方が参加しました。

今思えば本当にしんどい大会でしたが、この場所で記録を更新してジュニアオリンピックに出場した選手もいます。二度としたくないけど朗報は、嬉しい限りでした。本当にお手伝いありがとうございました。

2020年の名張市陸上競技協会の活躍をした選手を紹介しました。

11月1日、全日本大学駅伝競走



大会で17人抜きをして区間賞に輝いた皇学館大学4年生の川瀬翔矢選手です。彼は、つじが丘出身で名張クラブにも中学生の時はグランドまで走って来て練習に参加してました。彼は、ハーフマラソンでは、現役日本大学生の1位の記録を樹立しています。今の夢は、東京オリンピックの選考に残ることを目標にしています。次の選手は、近大高専5年生の伊藤陸選手です。昨年9月に新潟で行われた学生選手権大会の部で三段跳び16m35で優勝しました。また日本選手権では、三段跳、走幅跳と3位、4位と入賞を果たし、パリオリンピック代表選手候補選手にもなっております。彼は、最古のU20のインカレ三段跳の日本記録を42年ぶりに更新し歴史を切り開き続ける期待の二刀流ジャンパーとしてスケールの大きき選手です。

社会人においては、NTNの辻野恭哉選手がいます。全国中学校駅伝競走大会(山口)に出場、全高校駅伝競走大会連続第3位、箱根駅伝では、日本体育大学で5区を走り7位に入賞を果たしている選手です。今年は、第75回びわ湖毎日マラソンで1時間31分15秒の三重県新記録を樹立しました。(30キロの部)25年目を迎える名張クラブを今も陰ながら牽引を続

大会で17人抜きをして区間賞に輝いた皇学館大学4年生の川瀬翔矢選手です。彼は、つじが丘出身で名張クラブにも中学生の時はグランドまで走って来て練習に参加してました。彼は、ハーフマラソンでは、現役日本大学生の1位の記録を樹立しています。今の夢は、東京オリンピックの選考に残ることを目標にしています。次の選手は、近大高専5年生の伊藤陸選手です。昨年9月に新潟で行われた学生選手権大会の部で三段跳び16m35で優勝しました。また日本選手権では、三段跳、走幅跳と3位、4位と入賞を果たし、パリオリンピック代表選手候補選手にもなっております。彼は、最古のU20のインカレ三段跳の日本記録を42年ぶりに更新し歴史を切り開き続ける期待の二刀流ジャンパーとしてスケールの大きき選手です。

けてくれている貴重な存在の選手でもあります。

中学生の部においては、5年計画で名張市陸上競技協会が期待を寄せていた名張中学校3年生の男子200mの永安正弥選手もこのコロナ禍の中で監督共々無情の涙を流した一人でした。彼は、4種公認グラウンドになったメイハンフィールドでたくさんの方の大会記録を更新してきました。全国中学校選手権三重大会の出場を目指して名張クラブの会員、ぱりっこの会員、全員が応援に行く準備をしました。また、同様に名張中学校で昨年三重県代表で全国ジュニアオリンピック大会に出場した男子110mHの岡崎煌選手もいます。彼らは、第66回全日本中学生通信大会アシックスチャレンジカップにおいて永安正弥選手が200m22秒28で見事全国3位



に入賞しました。岡崎煌選手は、110mH14秒82で全国14位そのあとに続いて桔梗が丘中学校1年生の竹下諒君が1年100m11秒80で全国10位にいます。さらに忘れては、ならないのは、双子の長距離選手です。目指せ宗兄弟、設楽、村山、服部といわれるぐらいに育てていきたいと思っています。三重県ジュニアオリンピックでは松山優太君が1500m4分17秒61、唯人君が4分20秒02、3000mでは唯人君が9分28秒52、兄の優太君は9分14秒27で3位4位に入賞をしています。今季初めてデンソーカップでは、8部の力で5000mを16分47秒で走っています。昨年は、弟の唯人君が活躍そして今年も、優太君が上位に入賞しています。残された中学校最終学年としての活躍が今から楽しみです。

今年も、マスターズの試合が行われたのは、三重県では、数少ない名張市では、2000人の一人として選手兼審判で活躍された弓指雄作さんはM70の部で80mH14秒15で三重県新記録を樹立されました。最後に名張市陸上競技協会では、今年も第1回競技会は6月13日、7月24日、ナイター陸上は8月9日第2回競技会は8月22日親善試合9月11日と計画をしています。

で、地域の子どもたちが陸上競技の楽しさに触れ合う機会を作り、少子化が進む中でも陸上競技を行う子どもたちの競技人口の増加と、地域に明るい話題が提供できるように協会員一同、頑張っていきたいと考えています。

今年も、マスターズの試合が行われたのは、三重県では、数少ない名張市では、2000人の一人として選手兼審判で活躍された弓指雄作さんはM70の部で80mH14秒15で三重県新記録を樹立されました。最後に名張市陸上競技協会では、今年も第1回競技会は6月13日、7月24日、ナイター陸上は8月9日第2回競技会は8月22日親善試合9月11日と計画をしています。

今年も、マスターズの試合が行われたのは、三重県では、数少ない名張市では、2000人の一人として選手兼審判で活躍された弓指雄作さんはM70の部で80mH14秒15で三重県新記録を樹立されました。最後に名張市陸上競技協会では、今年も第1回競技会は6月13日、7月24日、ナイター陸上は8月9日第2回競技会は8月22日親善試合9月11日と計画をしています。

### 北牟婁陸協

極小規模な北牟婁陸協ですが、昨年度の「美し国三重市町対抗駅伝」において4位入賞を果たしたものの、今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、予定されていた行事がことごとく中止となり、地区で行われた行事は11月1日に行われた中学生の新人戦一つのみとなってしまいました。

更に、北牟婁陸協会長を務められ、長年に渡ってこの地の陸上競技に貢献されてきた中尾重志さんが急逝されたために、強化や普及の面でも大きな痛手を受けてしまいました。中尾さんのご冥福をお祈りするとともに、残された者で志を引き継ぎ、発展させていけるように気を引き締めて努力しているところです。



また、昨年度から投擲で活躍が期待されていた世古櫻紗（紀北中2年）が、今シーズンは十分な成長を果たすことができなかったものの、それでも1、2年生の砲丸投で全国ランキング11位、円盤投で1位につけており、同僚の小倉加粟とともに東海ランキングの上位につけていることも明るい話題として挙げられ、最後のシーズンにおける全国での活躍を期待したいところです。

強化普及の面については、強化練習会や他地区の練習会への参加、合同練習会の実施等が、新型コロナウイルスの影響で学校の部活動では対応が難しいために、紀

### 尾鷲陸協

お待ちしています。

昨シーズンは、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、当初予定していた大会が開催できなくなる等、十分な活動ができない一年となりました。今シーズンもコロナ禍の中での大会運営が続きそうですが、十分な感染対策を施した上

で、地域の子どもたちが陸上競技の楽しさに触れ合う機会を作り、少子化が進む中でも陸上競技を行う子どもたちの競技人口の増加と、地域に明るい話題が提供できるように協会員一同、頑張っていきたいと考えています。

北RCというクラブチームを立ち

勝しました。

上げて活動を強化し、対応してい  
るところです。また、尾鷲高校の  
垣内元宏先生が指導する紀北AC

中学生では、通信陸上大会で西  
岡瑠亜（木本中3年）が、女子棒  
高跳で8位に入賞しました。

の活動を通して、小学生の子ども  
たちに陸上競技に取り組みきつ  
けを与えることも継続して行われ  
ています。

小学生では、三重県小学生大会  
で、鈴木聡（阿田和小6年）が男  
子800mで4位に入賞しまし  
た。

今後も、明るい話題を少しでも  
多く提供できるように頑張ってい  
きたいと考えております。

また、長年、熊野陸上競技協会  
および熊野RCの会長を務めてい  
る、川村宏也が、その功績を認め  
られて東海陸上競技協会賞を受賞  
しました。

### 熊野陸協

現在、熊野RCには、小学生・  
中学生・高校生・一般まで94人の  
選手が所属しています。

本年度は、新型コロナ感染防止  
のために、参加できる大会や記録  
会が非常に少なかったです。また、  
外部の指導者を招いての陸上講習  
会なども開催できませんでした。

練習は、主に小学生が毎週土曜  
日の夕方に熊野市宮グラウンドや  
木本中学校グラウンドで、毎週水  
曜日の夜には木本中学校グラウン  
ドで行っています。

次年度は、可能な限り活動を増  
やしていきたいです。  
陸上部のある中学校・高校が少  
ないことと、指導者が少ないこと  
が課題ですが、お互いに連絡を取  
り合いながら小学生・中学生・高  
校生・一般と継続的な指導ができ  
るようにしています。

さらに、毎週木曜日を中心に、  
「熊野マラソン塾」と称して、美  
し国三重市町対抗伝長距離の選  
手を中心に長距離走の練習をして  
います。

今後、熊野市南牟婁郡地区で  
陸上競技の輪を広げられるよう  
に、熊野陸協として「熊野RC」  
を軸に活動していきたいと考えて  
います。

本年度は、陸上部がない木本高  
校の選手（曾越大成）が、三重  
県高校選手権大会において男子  
3000mSC・5000mで優

いよいよ国民体育大会・障害者  
大会「とこわか国体」「とこわか  
大会」が実施となる2021年度  
が目の前です。本来、全中大会が  
行なわれ、そして国体という順番  
であったのですが、コロナ禍にお  
ける判断により、全中大会が中止  
となりました。中体連関係を始め  
協会の皆さんはさぞかし口惜しい  
思いをされたのではと、心中をお  
察いたします。次年度に実施さ  
れる国体・障害者大会では、その  
無念も含めた心中を、是非、強化・  
競技運営に向けていただき、最高  
の大会としていただきますようお  
取り組みいただききたいと思いま  
す。

## 各委員会等報告

### 競技委員会

「機械は故障する」「人間はミス  
をする」という意識・緊張感を持  
ち、常に準備を怠らないようにし  
てゆくことも必要となります。そ  
れらの取り組みが、三重陸上競技  
協会の運営として、全国に誇れる  
ものになると思いますし、選手が  
安心・集中して競技に望める最高  
の大会となります。

どうぞ、ご協力よろしく願ひ  
します。

### 強化委員会

本年度はコロナウイルスの影響  
で鹿児島国体、都道府県対抗駅伝  
ともに中止となってしましまし  
た。特に国体におきましては来年  
度の三重とこわか国体と同種目で  
実施される予定でしたので非常に  
残念でした。戦力的にも充実して  
おり三桁の点数を出して来年度に  
勢いをつける予定でした。た  
だ、強化は順調に進んでおり、こ  
の冬季を上手く乗り越えれば必ず  
結果はついてくると信じていま  
す。

シーズンオフからの流れとしま  
しては、11月中旬に2日間、国体  
候補選手の練習会を開催しまし  
た。三重国体に向け、冬季練習を  
充実させること、体力面、技術面  
のチェック、冬季の練習会の確認  
などを中心に行いました。現在は  
コロナ禍で大きな単位での練習は  
難しく12月～3月までは各プロッ  
ク、各個人に焦点をあてて練習の  
充実をはかります。シーズン前の  
3月下旬に全体の練習会を行い、  
シーズン前のチェックをしていき  
ます。シーズンに入りましたら各  
カテゴリーの中で頑張ってもら  
い、夏以降、2回の練習会を実施  
し、9月30日からの本番に備えて  
いきます。国体までは各選手の状  
況などは細かくチェックしながら  
慎重に進めていこうと思います。  
三重とこわか国体を目指して、  
何年間かけて少しずつ準備を進  
めてきました。これからがいよ  
よ最後の詰めに向かう大切な時期  
にさしかかってきました。焦らず  
どっしり構えて出来ることはすべ  
てやって臨んでいきたいと思いま  
す。今後も強化委員会の活動にご  
理解、ご協力をよろしく願ひ申  
し上げます。

### 情報委員会

当県開催予定であった全中中止  
で準備に関わってしてくれた人達  
は意気消沈。今年は東海総体・国  
体・障害者大会とビックイベン  
トが続きますが、コロナ禍にあつて  
先行きが見通せません。無観客試  
合で開催にこぎつけた各大会で試  
験的にライブ中継を行いました。  
全国大会に負けじと踏ん張ってみ  
ました。お陰様で多くの方々に見  
聴いただきました。ご要望も多々  
あるかと思いますが、限りある資  
材で自前でふんばっていますので  
ご理解をお願いいたします。

競技場のハード面は三重県が多  
大なるご協力の元、最高の機材が  
導入できました。あとは選手に  
張っていただくだけです。ALL  
三重で天皇杯を獲得しましょう。  
やればできる！

### 普及委員会

日頃は普及委員会の活動に、ご  
理解とご協力を賜り心より御礼申  
し上げます。

「強化委員会との連携重視」「地  
区における普及活動の推進」「指  
導者の育成」の三本柱を重点目標

ファーストの理念の基に競技運  
営（審判）を行なえる陸協であり  
ます。そこで、全国大会など最高  
レベルの大会で最高の審判を行な  
うために心がけたいことは、  
ルールの熟知と毎年変わるルール  
の理解の基、毅然とした態度で審  
判するという基本的なことである

に掲げ、今年度も取り組みを進めてきました。

特に今年度においては、三重と

こわか国体以降のことも意識し、「指導者の育成」を最重要課題として、12月6日に「一人でも多くの人が陸上競技を楽しみ、そして関わり続けるために」のテーマのもと、「令和2年度三重県小学生クラブチーム指導者講習会」を開催しました。講義では、普及・強化の両委員長を歴任された、山本浩武強化委員長から、小学生の発達段階に応じた指導のあり方について、各地区視察やキッズアスリート陸上教室で感じたことなども交えながら教えていただきました。

実技講習では、小学生以降になげる動き作りについて研修しました。ダンスの要素を取り入れたウォーミングアップやリズムトレーニング、投の基本としてキャッチボールでの体の使い方の指導や大会出場者が減少している走高跳の指導方法について体験も交えながら研修できました。

コロナ禍の下、例年より参加者を限定する形ではありましたが、各地区の小学生普及担当者にも参加していただき、充実した講習会となりました。今回学んだことを

今後の各地区の普及活動に積極的に活用していただきたいと思います。

来年度以降もたくさんの子どもたちに夢を与え、陸上競技に対する意欲や興味・関心を高めるとともに、「選手の可能性の広がり」を大切に、息の長い選手の育成のために努力してまいりますので、今後もご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

⑤ 競技進行中は、全般的に観察し、絶えず審判長や総務、関係部署と連携を図り協議を重ね、競技の円滑な進行を図る。

競技場および長距離走路の公認終了期日

公認終了期日

(1) 三重交通Gスポーツの杜伊勢

1種(クラス2) 2022年10月19日

2022年3月検定予定

予定

(2) 三重交通Gスポーツの杜伊勢

(補助) 3種 2021年4月10日

2021年3月検定予定

(3) 三重交通Gスポーツの杜伊勢

(投てき場) 2021年4月10日

2021年3月検定予定

(4) 四日市中央緑地(陸) 2種

2025年8月

(5) 四日市ハーフマラソン 検定

予定

(6) AGF鈴鹿陸上競技場 3種

2023年3月30日

(7) 伊勢ハーフマラソン(ハーフ・10km・5km) 2025年5月31日

2025年5月31日

(8) メイハンフィールド陸上競技場 4種

2022年3月31日

(9) 三重松阪マラソン 2025

年8月

※競技場の新規公認及び継続の時、申請者は公認期間が切れる3か月前より、申請書を提出できます。尚、公認を廃止にする場合は、必ず廃止届を日本陸連に提出して下さい。公認期間は、5年間です。

※各地区でシティマラソンの企画及び競技者が増加しています。国際大会や招待選手が走る場合、自転車計測でない場合、自転車が走らないと公認が認められません。また、2020年から公認競技場として、4種L(ライト)が追加されました。砲丸、走幅跳、走高跳の施設が必要です。長距離走路の作成や、新規陸上競技場を設置する場合は技術委員会までご相談下さい。

今年度の医事委員会の活動に、温かいご理解とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

本年度は、新型コロナウイルス感染症のため、数、規模とも縮小された中で大会開催でしたが、小学生から一般全ての年齢層の大会を対象に、年間7大会延べ11日間、現場での救護活動を行ってま

いりました。なお、例年行っていたトレーニングステーションでの活動に関しては、不特定多数の選手がトレーナーと、またトレーナーが選手と直接身体に接触するということもあり、感染の危険性があることから活動を停止させていただきました。選手をはじめ、多くの関係者の方々に、ご迷惑とお手数をお掛けしましたこと、お詫びいたします。

また、今後もまだまだコロナ対策が中心となる生活の続くことが予想されます。

時間を追って、状況も情報もどんどん変化していきますので、関係者の皆様も最新の知識と情報を得られるよう常にアンテナを張っていただくことをお勧めします。

来年度は国体が開催予定です。難しい状況ではありますが、今以上のスタッフのスキルアップを図り、選手の方々が安全で安心して臨める大会づくりに尽力して参りたいと思います。

尚、来年度もトレーニングルームに開設させていただく予定です。どうぞお気軽にご利用下さい。スタッフ一同お待ちしております。

これからも、医事委員会の活動

に、ご理解とご協力、そしてご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年度は受難ともいえる年でした。年度当初の競技会はこのとく中止となり、ついには多くの方々の尽力も空しく三重全中も開催できませんでした。ただ、できなかったもののそれに向けて様々な努力をいただいた審判員の皆様にはこの場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

緊急事態宣言解除後は、感染症予防対策をもって競技会も実施に至りましたが、ご不便とご面倒をおかけし、申し訳なく思っております。ご協力ありがとうございました。次年度も基本的には同様の対策をしつつ競技運営をしていくこととなりますので、引き続きよ

2020年度 公認審判員数

審判種別	男	女	計
S級	64	1	65
A級	90	7	97
B級	270	112	382
合計	424	120	544



ろしくお願いいたします。

さて、いよいよ令和3年には、  
とこわか国体・とこわか大会が実  
施されます。これまでの集大成と  
位置づけ、総力をあげて取り組み、  
成功させなければなりません。そ  
の基となる審判員としての資質向  
上とさらなるご努力をお願いいた  
します。

◆2021年9月30日(木)

10月4日(月) とこわか国体

◆2021年10月23日(土)

10月25日(月) とこわか大会

### 中体連



令和2年4月28日(火)付で、  
「令和2年度全国中学校体育大会・  
第47回全日本中学校陸上競技選手  
権大会(三重全中)」の中止が、  
主催者である(公財)日本中学校  
体育連盟より正式に発表されまし  
た。何よりも、参加者や関係者を  
はじめとする大会に関わる全ての  
人たちの命と安全を最優先した判  
断でした。

5年前、三重県で全中が開催さ  
れることが決定してから、私たち  
は止まることなく三重全中大成  
功に向けて準備を進めてきまし  
た。毎年開催してきた県強化練習  
会や合宿ではMIEPRIDE

2020を合言葉に、私たちの地  
元で三重県の選手が一人でも多く  
輝けるように取り組んできました  
た。強化スタッフも一新し、新た  
な気持ちで突っ走ってきました。

今までにはない新しい取り組みや、  
県外にも足を伸ばして経験を積  
みました。強化スタッフも、少し  
でも選手たちの力になれるよう全  
国を駆け回って研修を続けてきま  
した。2月に開催した2000人  
練習会では、「TEAM三重」の  
団結力をあらためて実感しまし  
た。全国の猛者たちを迎え撃つ準  
備は万全でした。三重全中応援T  
シャツやロングTシャツは、本当  
にたくさんの方々の選手や保護者、顧問  
の先生が着てくれていました。三  
重県が一つになりつつありまし  
た。

運営に関しても正式に陸上競技  
実行委員会を設立し、三重陸協の  
全面的なご支援のもと準備を進め  
てきました。タイムテーブルや競  
技注意事項の作成、画期的な申込  
様式、今までにない表彰など、「全  
中史上初」にこだわって進めてき  
ました。参加選手はもちろん、応  
援の家族や友達などの一生の思い  
出になるような大会を目指してき  
ました。開催地である伊勢市の全  
面的なご支援もあり、今までの全

中では考えられない万全の交通対  
策や輸送対策、おもてなしを計画  
していただきました。

中止決定は、三重全中を目指し  
てきた三重県内の選手をはじめ、  
私たち準備を進めてきた関係者に  
とって大変ショックではありまし  
たが、前を向き進んでいます。

10月16日〜18日に横浜市日産ス  
タジアムで開催された、「JOC  
ジュニアオリンピックカップ全国  
中学生陸上競技大会2020」で  
は、坂山成さん(多気中)が女子  
砲丸投で見事優勝、清水彩加さ  
ん(白子中)が女子200mで第  
3位、同じく中川真友さん(明和  
中)が第8位、石井光稀さん(平  
田野中)が男子走高跳で第3位、  
松本未空さん(平田野中)が女子  
800mで第4位と三重県勢も大  
活躍してくれました。来年度の「三  
重とこわか国体」での活躍も非常  
に楽しみな選手たちです。

全ての方々に心から感謝を申し上  
げます。そして、今後とも三重県  
中体連陸上競技専門部へのご協力  
をお願いいたします。

### 高体連



令和2年は我慢の年になりました。  
新型コロナウイルス感染拡大  
の影響により、予定されていた大  
会が次々と中止になり、高校生の  
目標である高校総体も中止となっ  
てしまいました。

大変な状況ではありましたが、  
多くの方々にご尽力いただき、10  
月に広島で全国大会を開催するこ  
とができました。三重県からは男  
子が23名、女子が17名の選手が出  
場しました。男子は近大高専の長  
田君が110mHで6位、久居の  
小河君が2年生ながら8位、四日  
市工業の佐藤君が5000mで2  
位、やり投で伊勢工業の中村君が  
5位、宇治山田商業の濱口君が円  
盤投で2位に入賞する活躍をみせ  
てくれました。女子では稲生の岩  
本さんが砲丸投で2位に、また円  
盤投で3位に入賞、三重の西井さ  
んは円盤投で2年生ながら2位に  
入賞、神戸の吉田さんも5位に入  
賞し県勢から3名の選手が入賞し  
てくれました。



高校駅伝の開催も心配されまし  
たが、三重高校にはコロナ禍でも  
会場校を快く引き受けていただき  
ました。さらにはプラスバンド部  
の演奏からエールをいただきました  
た。そして沿道にお住まいの方々  
から心温まるお言葉、松坂警察署  
のサポートや協力を得て無事開催  
することができました。本当にあ  
りがとうございました。男子は四  
日市工業が2年連続出場、女子は  
津商業が2年ぶりの出場を果たし  
健闘してくれました。

有してきた経験は、かけがえのな  
いもので、今後の人生の中で糧と  
なり、必ず生きてくることでしょ  
う。特に卒業していく3年生の皆  
さんそれぞれが辛い想いに耐え、  
やり抜いたことに自信を持って欲  
しいです。また、新たな目標をも  
ち、自分自身が輝くことができる  
道を歩んでいってもらいたいと思  
います。

冒頭でも申し上げた通り、今年  
は「我慢」の年でありましたが、  
その中でも希望の光を見失わず  
「本当に大切なもの」を再確認し  
た年だったのかもしれない。新  
型コロナウィルスの収束にはまだ  
時間がかかるかもしれませんが、  
今できることを最大限に行い、来  
シーズンに向けて様々な準備と取  
り組みををしてもらいたいと思  
います。令和3年の皆さんの活躍を  
大いに期待しています。